

令和 7 年度 大保木地区タウンミーティング 発言要旨

【日 時】令和 7 年 7 月 28 日(月)10:00~11:30

【場 所】石鎚ふれあいの里

【参加者】地域:18 人(大保木地区連合自治会長ほか)

市:市長、副市長、大保木公民館長(司会)

【テーマ】大保木地区の再生と活性化

R7.7.28 当日の発言内容

▶大保木診療所跡の建物利用

■参加者

- ・診療所だった建物を大保木の歴史文化・伝統(銀納義民など)を保存する施設として活用してはどうか。
- ・診療所奥にある旧職員住宅は、以前、人が住み込みで管理していた経緯もあるので、その時のように地域で管理させてもらえないか。

●市長

- ・診療所は3月末に閉院したが、建物はしっかりしているので、すぐ壊すにはもったいなく、何とか活用できないかと思う。
- ・市として、利活用の方針は現在白紙の状態。住民が希望する方法で活用するのが一番。
- ・大保木出身の方で欲しいと言う方がいれば、お買い求めいただくのも 1 つの方法だと思っている。私がどうしたいかよりも、住民の皆さんがどうしたいかが一番。

■参加者

- ・この利活用に関する経緯は、地域活動団体が関わってくれており、木工クラブを立ち上げようとしている。
- ・市内には、地域の伝統文化を継承するような郷土館はあるが、1 回の見学で終わってしまう可能性が高い。
- ・年中人に来てもらえるような企画を打って、地域の活性化につながる施設として利活用できればいいなという思いを持っていたが、今回団体協力できる旨の意向を受けた。
- ・先日、市の担当課立ち会いのもと、建物の中を見ていただき、十分使える施設だという話になった。
- ・建物の利活用について、市から地域側に委託してもらえるならば、管理運営の中で発生する経費等が、具体的にどのように処置されるのかが今後の問題になると思っている。その辺のご所見をいただきたい。

●市長

- ・経費については、十分精査する必要があると思う。

- ・どういう用途で使用するかということも関わってくる。また、市の所有でいくかどうか。
- ・購入希望者に非常に安価な形でお売りするというのも一つの方法だと思っている。
- ・市が管理運営するのは難しく、市営でうまくいくことはそれほど多くない。
- ・市営であれば、どうしても堅苦しいルールが存在するので、利用される方にもご納得いただけない可能性も出てくると思う。

●副市長

- ・診療所は昭和 10 年に建設、約 90 年経過している建物だが、活用するには耐震化という点で一つ問題がある。
- ・先ほど市長が申し上げたとおり、市で運営すると様々な規則があり、活用に制約が出てくると考えられる。
- ・地域で活用したいという話になれば、地域への売却や譲渡といったことで、自由に使っていただく方がやりやすいのかなというように感じている。
- ・もし市が貸した場合、耐震化できていない場所に住民を行かすのかというようなところも議題になってくるので、そういったところも踏まえると売却等も一つ視野に入れながら考えていくことも活用方法の一つであると思っている。

■参加者

- ・民間に安価で売却していただいて、自由に活発に利用する方が活きると思う。
- ・以前に旧職員住宅への移住希望者がいたが、診療所がまだ運営されていたのでタイミングが合わなかった。

■参加者

- ・自分が経営している会社の従業員で、街中で暮らして林業をやっていたが、山に住んで林業をしたいという方がいた。
- ・山には空き家が少ないという事情があり、当時旧職員住宅に誰も住んでいない状況であったので、そういった話もしたが、タイミングが合わなかった。結局、家が見つからなかったために当人は林業を辞めて、違う地域に行ってしまった。
- ・現状、旧職員住宅の住んでいた家に住むとなると、相当な修繕費用を要するであろう。
- ・必要な時に必要な状況をすぐに作れるとは限らないので、事前の情報共有や年に数回窓を開けるとかしっかり管理をしていけば、もしかしたら家も維持できていたかもしれないと思うところがある。

■参加者

- ・やはりタイミングが大事。
- ・市の空き家バンク制度があるが、登録するためにはトイレや風呂が必要などの条件があり、マッチするような空き家がなかなかないというのも実情である。
- ・建物が古いことも相まって、この地域に新規に移住してくれるタイミングは、阿吽の呼吸が必要という場面が多くある。

・何かノウハウがあれば提供いただければありがたい。

●公民館長

・今回を機に、診療所の今後の利活用について、市の方とも協議させていただければと思う。

▶兎之山地区の農業問題

■参加者

- ・サルやイノシシによる鳥獣被害がある。常時監視するわけにはいかず、知らぬ間に作物が被害に遭うことが度々あり、耕作意欲が低下してきている。
- ・農地自体が狭い上に、後継者不足もあいまって、耕作放棄地が増えてきている。
- ・他の地域のように面積を広げるほ場整備は現実的でないと考えますが、農地を守っていかないと、今後住み続ける環境も悪くなると思う。
- ・ダムができてから、過疎化が進んでいるが、山間部地域を活性化しようにも人手がなく、なんともできない。
- ・特に中山間地域での兼業農家が続けることができるように対応をお願いしたい。
- ・イノシシに関してはイタチごっこになるので、集落全体を防備できるようワイヤーメッシュなどの補助があればありがたい。

●市長

- ・地域の活性化に関しては、兎之山地区だけで考えるのではなく、大保木地区などを含む、もう少し山手から幅広く活性化する必要があると考えている。
- ・鳥獣被害は西条市だけの問題ではないが、狩猟免許保持者の高齢化も気になるところではある。現時点で明確な発言はできないが、しっかりとサポートしていきたいと考えているし、県にも働きかけていきたい。

●副市長

- ・皆さんにほ場をしっかりと整備したい気持ちはあっても、大掛かりなほ場整備をするのであれば、後継者がいることが前提で、かつ完成に最低 10 年かかる。
- ・ほ場整備も、60%の合意で暫定的に着手することができるが、最終的には 100%の合意が必要となるので、非常に難しいと思う。
- ・先ほどの話にあったように、今こそ兼業農家が必要だと思う。ほ場整備が進めば、大きな機械で作業できるので、兎之山地区においても住民・農家の合意が取れれば良いと思う。
- ・一方で、換地のことが一番問題で、このことについては利害関係のない第三者が決めてくれる方が良いと思っている。
- ・ワイヤーメッシュは丹原町川根地区で行っている。これも 20 年間農業を続けるという国との約束が必要になるので、状況として難しいのかもしれないが、困りごとがあれば林業振興課に相談してもらいたい。

■参加者

- ・林業振興課から煙火を 1 人あたり 10 本支給してもらっていたが、今回から 8 本に減っている。住民サービスが後退するのは残念。農業従事者が減少しているのに更に減らすのか。
- ・市役所には日頃から色々な形で応援してもらっているので感謝している。必要とする人が増えたので、1 人当たりの本数が減ったという理由も聞いているが、なんとか対応をお願いしたい。
- ・自分は個人的に 500 本購入して、毎朝駆除しているので 10 本に戻してほしい。
- ・被害が増えると生産意欲も低下し、もう農家をやめようかなと思う。そうなると地域崩壊につながっていく。

●副市長

- ・担当課に伝える。

▶公民館の機能

■参加者

- ・近年、公民館は社会教育の枠を超えた地域づくりの拠点としての機能が求められている。そのような中で昨年、自治会研修で西予市狩江地域を訪問し、地域づくり活動センターの活動を見学した。
- ・独居老人の方等も巻き込み、修学旅行生を招いて、その地区の生活を体験してもらう等、とても前向きに活動していた。各地区で収益を得る活動を行い、より充実した地域活動に繋げていたので、大保木でも同様にできたらいいなと思う。

●市長

- ・公民館という施設の中で、大きくルールを変えることはやぶさかではないが、限界集落の大保木だけ特例で認めるのは簡単なことではない。

■参加者

- ・5～6 年前、知り合いのアーティストからライブイベントをしたいという相談を受け、公民館だったら体育館もグラウンドもあるので会場に適しているのではと思ったが、商用利用できないということで断念した経緯がある。
- ・地元の方が音楽を聴きに来ることができるような、地域活性化の意味合いも含む活動であっても、収益を生むのであればできないという現状である。
- ・この部分が緩和されると、色々な人が山に来る口実ができると思うので、こういったことであれば可能なのか、勉強させていただきたい。

●市長

- ・公共施設の利用料金について検討を始めたところである。
現時点で詳細を申し上げることはできないが、商業利用者向けへの対応も検討している最中である。

●副市長

- ・文科省から令和 5 年 12 月に事務連絡として通知がきており、「公民館が営利事業に関わることを全面的に禁止するものではない」とある。
- ・「地域課題を解決する目的」とする営利活動であることに限定されるが、例えば、先ほどの話であれば、「地域住民の文化交流利用の向上に資すること」であれば、入場料をとって、クラシックコンサートを開催することもおそらく可能だと考えられる。
- ・実施主体が公民館なのか、公民館以外なのか等、また単に収益を目的とする活動ではない等条件があると思うので、その都度社会教育課に確認していただきたいと思う。

▶「高所トレーニング場」の開設についての現状

●市長

- ・約 3 年前からの構想である。
高所でトレーニングを実施する理由として、
 - ①地球温暖化による平地でのトレーニングの難しさ
 - ・35℃を越える平地でのトレーニングは熱中症や脱水症状等で危険。
 - ・成就地区は平地より 6～7℃気温が低く、30℃を越えず、涼しいので安全。
 - ②競技能力の向上
 - ・酸素濃度 95%程度でトレーニングするので、心肺機能の向上が見られる。
 - ・向上する期間トレーニング後 1～2 カ月の間。例えば 12 月に高所でトレーニングすると、1 月の大会で成績が良くなる。
- ・海外でトレーニングを行う日本のトップ選手が、国内でトレーニングができればコストを抑えられる。
また、高齢者の健康増進面でも価値がある。
- ・高所トレーニング場の候補となりうる場所は、石鎚があるここ成就地区以外、西日本にはない。阿蘇や大山にもトレーニング場があるが、標高 800m前後で効果は少なく、実際には高所と呼べない。
- ・石鎚山の恵みがあるこの場所をいかに将来に結びつけるかということが非常に大事。
- ・企業にも様々な実業団チームがあるので、参画してもらえる可能性はあると思うし、建設において資金面での支援で手を挙げてくれているところも数か所ある。
- ・ただ、国立公園であるため制限があり、林野庁や農林水産関係の機関にも許認可を得る必要がある
ので、今後しっかりプランニングする。
- ・現時点で、表立って皆さんにお知らせできることはないが、諦めていない。賛同者を徐々に増やしている。

■参加者

- ・整備できたら人口減少等の問題も少し食い止めることができるかもしれない。しかし、10 年 20 年先どうなるかという事ではなくて、例えば 3～4 年で解決するというものがあれば、この地域で生きる人間にとって大きな力になるのだが、その点はどうか。

●市長

- ・いろいろなところに要請しているが、時期については正確に申し上げることができない。

- ・何より大事なのは、やはり住民の皆様の気持ちである。皆さんの同意がなければ進まない。自分の立場では言いづらいが賛成の声を集めていただけると行政は動きやすい。

■参加者

- ・地域住民の多くは異論がないのではないかと思う。

■参加者

- ・現在のスキー場施設の関連性など市長がイメージする「高所トレーニング場」を教えてください。

●市長

- ・下にあるピクニック園地での建設を検討している。
- ・夏のスターナイトツアーは、人工芝のインフィールド(トラックの内側)で行い、冬は、上に中・上級者コースがあるので、下は家族向けに人工芝に雪を降らせるとよい。
- ・まずは400mトラックとインフィールドを考えており、補足的な施設は少し先になると考えられる。
- ・また、現在は閉鎖中だが、昭和47年に旧小松町が作った展望台があり、非常に素晴らしいので、そこにトレーニングルームや食事処を併設するような形が望ましい。天候が崩れることもあるので、屋内施設もあればいいと思う。
- ・利用者のターゲットは、プレーヤーのほかにインバウンドを考えている。
- ・松山空港から高所トレーニング場候補地まで1時間半かからないのではないかと思う。そういった場所は、日本にほとんど存在しない。
- ・自分の知る限り韓国には高い山がないので、韓国やアジア系の方に高所トレーニング場として利用いただきやすいのではないか。

■参加者

- ・説明を受けて現状が良く分かった。巷では、スキー場の閉鎖を伴うのではないか、工事するのに大規模な開発が入るのではないか等の懸念が出ているので、直接話を聞いたことはよかった。このような話が色々な所で聞くことができたら、もう少し市民の理解も進むかなと思う。
- ・人が増えて地域が活性化するというのも論点の1つだと思う。小規模の田んぼで米などを作っても、欠かすことができない草刈りなどの作業自体には生産性がなく、それだけでは産業とは言えない。狩猟も同様である。
- ・スポーツ場の整備と併せて、地域を開拓するような形で生活環境等の整備をしてもらえると、より良い地域になると思う。これが防災や水源環境につながっていくと思う。

●市長

- ・大保木地区での産業は林業が主になるだろう。
- ・木材の伐採は色々工夫してできるだろうが、最近では、クロモジの枝葉から採れるアロマオイルなどもお土産品として扱っている。加工関係の産業に頑張ってもらえるようなサポート体制が必要だと思う。
- ・今後トレーニング場ができたら、通年ではないにしろ、何らかの仕事が生まれる。

・トレーニング場とあわせて「林業の担い手」以外の何か「仕事」ができればよいと思う。

■参加者

- ・農業等だけで暮らしていけるような体制づくりを進めてほしい。農地の維持や山の管理は生半可ではない労力を要する。
- ・人口が増えても、農業・林業従事者が増えるとは思えない。技術を継承する意味でも、市長の立場から国などに言ってもらいたい。

●市長

- ・おっしゃるとおり。農業は本当に大事だと思っているので、しっかりと要望していきたい。